

## 4 たばこ

### 大目標：防煙（未成年）・分煙の推進と禁煙支援

#### 中目標：たばこの害についての理解向上

##### 小目標

- 1 喫煙による健康への影響について、正しい知識を普及します

#### 中目標：分煙・禁煙・節煙の推進

##### 小目標

- 2 公共の場での受動喫煙\*防止を推進します
- 3 禁煙・節煙希望者を支援します

#### 中目標：未成年の喫煙防止（防煙）

##### 小目標

- 4 未成年者はたばこを吸いません

たばこには、依存性のあるニコチンのほか、タール、一酸化炭素、アンモニアなど多くの有害物質が含まれており、様々な生活習慣病の発症や妊娠時の低体重児の出生や早産に関係しています。また、未成年の時から吸い始めると、がんや心臓病にかかる危険性が特に高くなることや、シンナー、覚せい剤・麻薬など薬物乱用のきっかけになることも指摘されています。

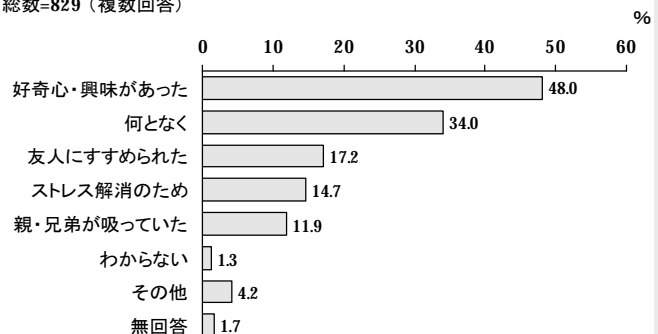
さらに、たばこを吸っている本人だけでなく、煙を吸わされている周囲の人々の健康被害も引き起こすことから、平成 15 年 5 月施行の健康増進法\*により、多数の人が利用する施設の管理者に対して、受動喫煙防止対策を講じるよう努めることが義務付けられました。平成 17 年には、たばこの広告・販売促進の規制についての国際的なルールを定めた世界保健機構のたばこ規制枠組み条約が発効し、たばこによる健康被害の防止は国際的な流れとなっています。

このような動きを踏まえ、今後ともたばこの害や非喫煙についての意識啓発や、受動喫煙防止対策の一層の強化を図るとともに、たばこをやめたい人、減らしたい人に対する支援を充実することが重要となっています。また、未成年者の喫煙防止に向けては、児童生徒自身の意識向上を図ると同時に、未成年者の喫煙を容認しない社会づくりを進める必要があります。

#### ■たばこを吸ったきっかけ(20歳以上)

たばこを吸ったきっかけとしては、「好奇心・興味」が半数近くで第 1 位となっていますが、「何となく」も 34.0%と高い割合になっています。興味本位になんとなく吸いはじめる人が多く、吸わない、吸わせない意識づくり、環境づくりが重要であることがうかがえます。

総数=829 (複数回答)



出典：「さいたま市 健康についての調査」(平成 18 年 3 月)

# 1 現状と課題

## [1] たばこの害についての理解向上

### (現状)

- アンケート調査では、「肺がん」「妊婦への影響」「気管支炎」については、喫煙によりかかりやすくなると思う割合が **70%** を超えており、喫煙の影響が広く認識されています。
- 一方、胃かきょうや歯周病、脳卒中\*や心臓病については、「わからない」や「そう思わない」の割合が高く、認識がまだ十分ではない状況となっています。
- 策定時と比較すると、影響を正しく認識している割合は全体的に高まっており、たばこの害についての理解は進んでいます。

### (これまでの取り組みと今後の課題)

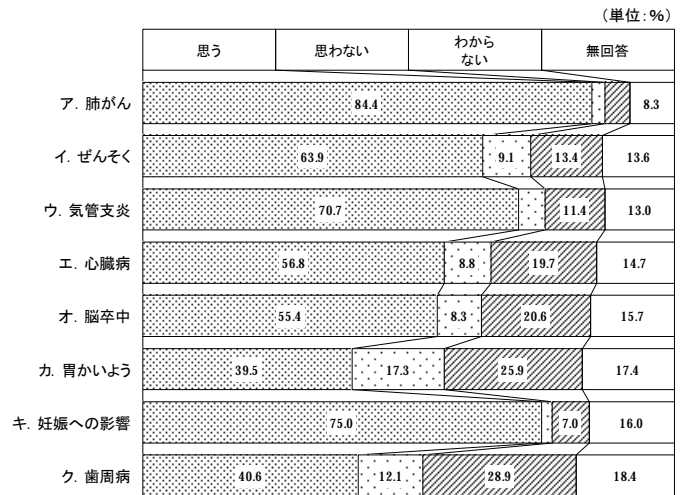
- 本市では、市報、ホームページ、リーフレットの作成、配布や健康フェアなどを通じて、たばこの害の周知を図っているほか、市立小中学校、高校においても薬物乱用防止の一環として、たばこの害について指導しています。アンケート調査では、たばこが与える胃潰瘍や歯周病、脳卒中や心臓病などへの影響について、まだ十分に知られていないことから、正しい知識の普及啓発が必要となっています。

## [2] 分煙・禁煙・節煙の推進

### (現状)

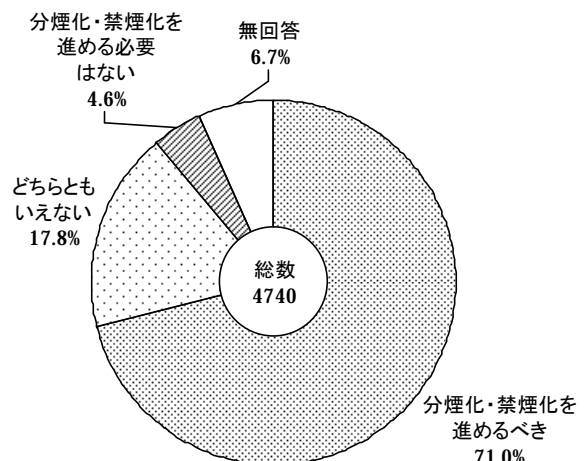
- アンケート調査によれば、分煙化・禁煙化を進めるべきだとする割合が **71.0%** にのぼっており、分煙化・禁煙化は社会的な流れとなっています。

### ①たばこの害についての知識



出典：「さいたま市 健康についての調査」(平成18年3月)

### ②分煙化・禁煙化を進めるべきだとする割合

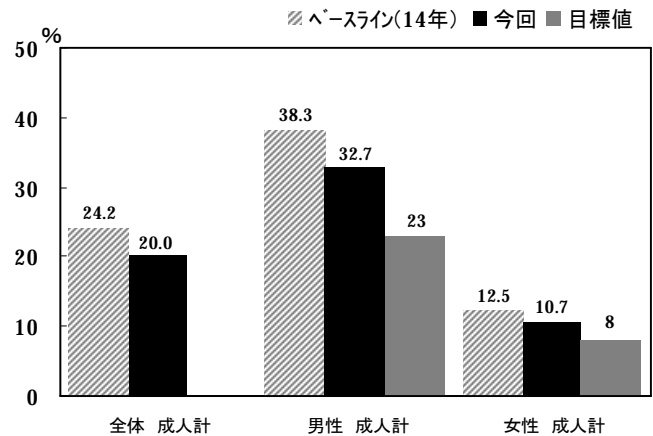


出典：「さいたま市 健康についての調査」(平成18年3月)

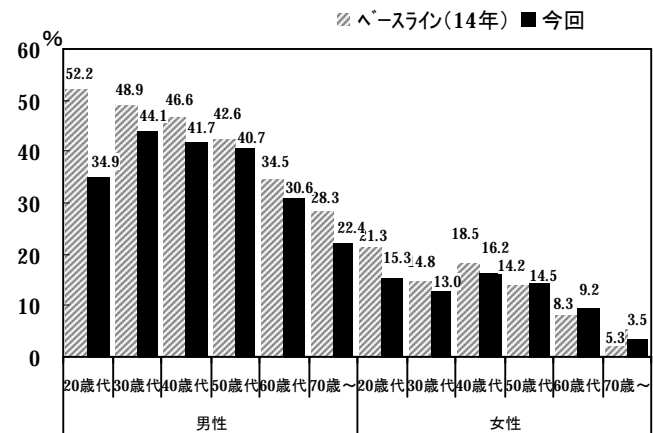
- 20歳以上の**20.0%**がたばこを吸っており、「以前吸っていたがやめた」禁煙者は**19.9%**、非喫煙者は**54.2%**となっています。
- 喫煙者の割合は、策定時よりも**4**ポイント低下しており、特に、男性**20**歳代で**17**ポイント減、女性**20**歳代で**6**ポイント減と顕著に減少しています。
- 男性**30**歳代、**40**歳代でも策定時から**5**ポイント減少していますが、依然として全体を大きく上回る喫煙率となっています。

### ③たばこを吸う人の割合(20歳以上)

【男女別】

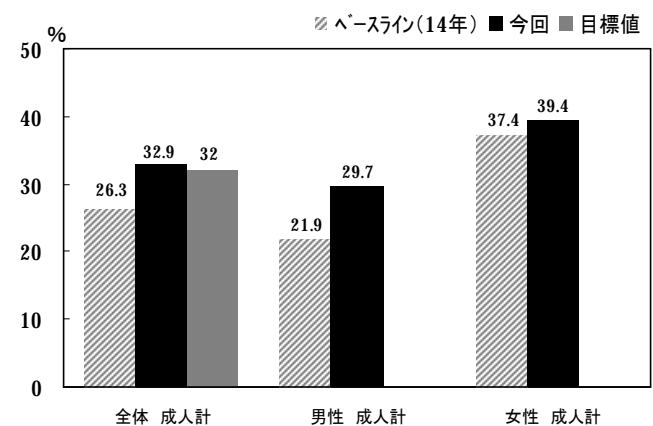


【男女別年代別】



- 喫煙者(成人)の**32.9%**は、たばこをやめたいと考え、**43.5%**は減らしたいと考えています。策定時と比較して、やめたいとする割合は約**7**ポイント増加していますが、減らしたいとする割合は**7**ポイント減少しています。

### ④たばこをやめたいと思う割合(20歳以上)



出典：③、④とも「さいたま市 健康についての調査」(平成18年3月)

**(これまでの取り組みと今後の課題)**

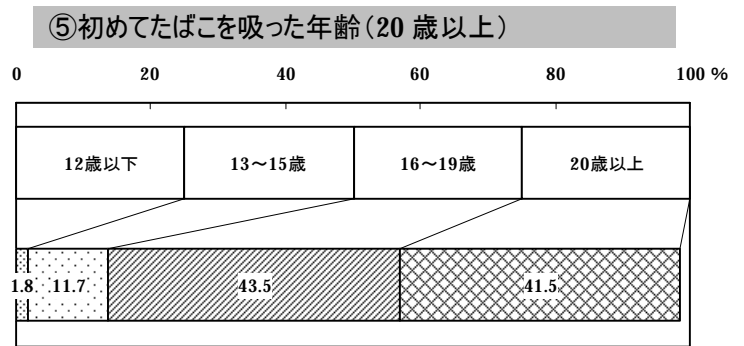
- 本市では、すべての市有施設において、その構造にあわせて禁煙もしくは分煙の措置をとり、受動喫煙\*防止対策を推進しています。ヘルスプラン2 1 サポーター\*の団体、事業所では、職場などにおける禁煙、分煙に取り組んでいます。アンケート調査では分煙化・禁煙化を進めるべきとしている人の割合は **71.0%**となっており、今後は、民間施設を含め、人の集まる場所での受動喫煙防止の徹底と、受動喫煙の害についての意識啓発をさらに進める必要があります。
- 本市では、試行的に禁煙サポート教室を実施したほか、市民からの相談に対して生活習慣上の指導や、禁煙治療を行う医療機関の紹介などを行っています。アンケート調査では、禁煙や節煙の希望者が高い割合となっていることから、このような禁煙・節煙希望者に対する支援策を充実することが求められています。

また、本市では、これまで「禁煙・節煙希望者の割合」について、目標値を掲げておりましたが、禁煙・節煙希望者への支援の評価指標として、新たに「喫煙している人の割合」を目標値に加え、効果的な支援に取り組むものとしします。

**[ 3 ] 未成年者の喫煙防止 (防煙)**

**(現 状)**

- アンケート調査によれば、現在、**20 歳以上**の喫煙者の **57.0%**が、未成年の時にたばこを吸いはじめています。特に、**16～19 歳**で吸い始めたとする割合が **43.5%**と高くなっています。
- また、アンケート調査によれば、現在、**19 歳以下**の喫煙者は、実数ではわずかですが (**23 人**)、そのうちの約6割が中学生から吸い始めており、きっかけは好奇心からとする割合が高くなっています。



出典：「さいたま市 健康についての調査」(平成 18 年 3 月)

**(これまでの取り組みと今後の課題)**

- 市立小中学校では児童生徒の禁煙教育に力を入れており、喫煙を含む薬物乱用防止教室やパンフレットなどによる意識向上、敷地内全面禁煙に取り組んでいます。また、ヘルスプラン2 1 サポーターにおいても、多くの団体で未成年者の喫煙防止、施設内禁煙などのたばこ対策に取り組んでいます。しかし、**20 歳未満**からの喫煙開始者の割合が依然高いことから、今後とも、家庭と学校、行政、地域社会の協力関係を深めながら、未成年者に対する意識啓発に取り組むとともに、未成年者がたばこを買えない、吸えない環境づくりに取り組んでいくことが必要です。

## 2 目標と関連指標

大目標：防煙（未成年者）・分煙の推進と禁煙支援

### 中目標 [ 1 ] たばこの害についての理解向上

小目標 1 喫煙による健康への影響について、正しい知識を普及します

関連指標		ペースライン値 (H14)	最新値 (H17)	目標値 (H22)
①喫煙が及ぼす健康 影響についての十 分な知識のある人 の割合(%)	肺がん	85.0	84.4	100
	ぜんそく	62.7	63.9	100
	気管支炎	68.9	70.7	100
	心臓病	51.5	56.8	100
	脳卒中*	45.1	55.4	100
	胃かいよう	37.3	39.5	100
	妊娠への影響	74.8	75.0	100
	歯周病	34.1	40.6	100

### 中目標 [ 2 ] 分煙・禁煙・節煙の推進

小目標 2 公共の場での受動喫煙\*防止を推進します

関連指標		ペースライン値 (H14)	最新値 (H17)	目標値 (H22)
②分煙化・禁煙化を推進 する人の割合(%)	全体	77.3	71.0	100

小目標 3 禁煙・節煙希望者を支援します

関連指標		ペースライン値 (H14)	最新値 (H17)	目標値 (H22)
③禁煙・節煙希望者 の割合(%)	禁煙希望者(成人)	26.3	32.9	32 以上
	節煙希望者(成人)	50.4	43.5	60 以上
④喫煙している人の割 合(%)※1	男性(成人)	38.3	32.7	23 以下
	女性(成人)	12.5	10.7	8 以下

### 中目標 [ 3 ] 未成年者の喫煙防止（防煙）

小目標 4 未成年者はたばこを吸いません

関連指標		ペースライン値 (H14)	最新値 (H17)	目標値 (H22)
⑤未成年者の喫煙 率(%)	19歳以下※1	18.1	6.2	なくす
⑥未成年者の喫煙 開始年齢(%)	小学生以下	24.1	13.0	なくす
	中学生	48.1	60.9	なくす
	16～19歳	27.8	26.1	なくす

※1 禁煙支援の達成状況の指標として、新たに喫煙している人の割合を設定しました。  
出典：関連指標①～⑥とも「さいたま市 健康についての調査」(平成 18 年 3 月)による。

### 3 具体的な取り組み

#### 大目標：防煙（未成年）・分煙の推進と禁煙支援

##### 中目標〔1〕たばこの害についての理解向上

小目標	市民の取り組み	民間団体・関係機関・事業者などの取り組み	市の取り組み
1 喫煙による健康への影響について、正しい知識を普及します	<ul style="list-style-type: none"> <li>たばこの害や健康への影響について、いろいろな機会を通じて学びます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>喫煙や受動喫煙*の健康への影響について、正しい知識の普及・啓発をします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種保健事業（母親学級、育児学級、健康教室、健康相談など）を通じて、喫煙および受動喫煙の健康への影響について、正しい知識の普及・啓発をします。</li> </ul>

##### 中目標〔2〕分煙・禁煙・節煙の推進

2 公共の場や職場での受動喫煙防止を推進します	<ul style="list-style-type: none"> <li>喫煙場所以外では、喫煙しません。</li> <li>非喫煙者、特に妊婦や子どももの周りでは、たばこを吸いません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非喫煙者の保護、受動喫煙防止のため職場内や飲食店、駅、学校、病院などでの分煙、禁煙をさらに推進していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁舎内や学校など、公的施設での禁煙を推進するとともに、分煙の徹底を図ります。</li> <li>路上喫煙禁止区域を指定します。</li> <li>路上喫煙禁止区域以外での路上喫煙の自粛を含め喫煙マナーの啓発に努めます。</li> </ul>
3 禁煙・節煙希望者を支援します	<ul style="list-style-type: none"> <li>禁煙教室や禁煙相談、禁煙外来*などを活用し、禁煙や節煙にチャレンジします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>禁煙外来の充実を図り、禁煙や節煙希望者を支援する体制を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>禁煙や節煙希望者に対し、禁煙教室や禁煙相談への参加を勧め、また、禁煙外来の紹介など、積極的に禁煙・節煙をサポートしていきます。</li> </ul>

##### 中目標〔3〕未成年の喫煙防止（防煙）

4 未成年者はたばこを吸いません	<ul style="list-style-type: none"> <li>未成年者はたばこを吸いません、吸わせません。</li> <li>家庭内でも分煙・禁煙を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未成年者にはたばこを売れません。</li> <li>たばこ広告に関連するものは、未成年者の喫煙防止（防煙）について記述します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と連携し、児童、生徒、保護者などに対して喫煙防止教育を行っていきます。</li> <li>未成年者の喫煙防止パンフレットなどを作成し、地域の子ども会や自治会などを通じて、たばこの害や健康への影響についての知識の普及・啓発と喫煙防止の推進を図ります。</li> </ul>
------------------	--	---	--